平成 22 年 3月 1 日
第 34 号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

水路斜面をブロックで改良



簡単そうに見えるが、まっすぐにブロックを置いていくのはなかなか難しい。いろいろな道具を使いながら、少しずつ作業を進めた

地区内圃場の一番北側の水路は用水ポンプ送水管のすぐ下に位置します。ここは土手の斜面に面しており土砂の崩落が止まりません。市担当課とも相談しましたが、対応は予定していないとのことでした。

八方原の環境を守る会では役員で協議の結果、現在ある水路ブロックの上にもう一段コンクリートブロックを乗せて崩落防止と除草作業の軽減を図ることにしました。

用意したブロックは50㎝四方の厚さ10㎝のものが40枚。一枚の重量が50kgありますから全部で2トンもの重量になります。運送業者がクレーンで近くの圃場に下ろしてくれましたが、用意したパレットが沈み込むほどの重量です。

2月21日の午前中、作業を行いました。地元の建設会社で働く原田哲夫氏の指導で手順通り進められます。まず今ある土砂を取り除き、ブッロクをすえる床を作ります。角度や距離を確かめながら、一通りできたところで、トラクターで運んできたブロックを一枚ずつ並べていきます。ブロックは相互にかみ合うようになりますので一旦置いてしまうと動かせなくなります。慎重に位置を決めながら置いていきました。

この日は朝の気温は氷点下の寒さ。しかし重いブロックの作業なのでしばらくすると汗がにじむほどになってきました。

床を作るために、一旦水路に落とした土砂をすくいあげてトラクターのバケットに移し、水路の外に排出して作業は終了しました。

まだまだ必要な箇所は少なくありませんが、今後少しずつ作業を進めていきたいと考えています。



水を含んだ重い土砂をすくいあげる



特殊な器具で一度に 600kg を吊り下ろす

「肥だめ」は究極のエコトイレ


エコトイレの安藤さんのの本業は宇部市の建設会社

1月31日。山口県農地・水・環境保全向上対策協議会山口支部の「農村の未来を考える」という研修会が阿東の長門峡自然休養村管理センターで行われました。

阿東地区の組織づくりの講演の後、阿武町で行われている「あったか村」の事例が報告されました。講師は安藤公門さんです。安藤さんは循環型社会の要として昔ながらの「肥だめ」の力を利用したトイレを開発した人です。

「糞尿は資源である」と宣言しました。現在の浄化槽や公共下水は最終的に乾燥汚泥が産業廃棄物として処理されていますが、安藤さんは「それは間違いである」と断言しました。「肥だめの力は凄いもので、その中に生きている生物の力で殆どのものが分解されて、養分として土に帰すことができる。今も伝統的な肥だめを探しているのだが、どこかにないか」と会場に問いかける熱の入れようでした。

水が充分でないところや排水設備がないところでも衛生的なトイレの設置が可能だとして例をあげてくれました。秋吉台のオートキャンプ場では安藤さんの提唱するエコトイレが採用されているそうです。また発展途上のタイの北部の農村では環境循環型のこの方式が使われて、成果を上げていることを紹介しました。

今では個人のお宅にも南何軒か設置されたとのことです。後のランニングコストが殆どかからないために有利な点もあるが、建設費用は少し高くなるとのことです。

ようやく県の保健衛生課でも「衛生的なトイレ」として認めてくれたと、行政の対応にちくりとひと言。

昔はこの地区にも肥だめというのがありましたね。昔の人の知恵は偉大だったのかも知れません。

移動しながら送水管の取り付け工事

現在進んでいる水道管の敷設工事では、新町方面から八方原地区に送水管が新たに設けられました。

送水管が椹野川を渡るのは八方原橋です。端の下流側の欄干の下部に送水管が取り付けられました。

新たなパイプを設置するために橋桁の下に回り込む必要がありますが、業者は小型のバケットのついた作業車を持ち込んで瞬く間に加工作業を済ませました。その後送水管が次々にしっかりと設置されました。


橋の上の作業車から吊り下ろされた状態で作業

20年後を考える環境マンガ



ご家族全員で農業環境を考えていただくために、「おいしい島のウーさま」というコミック風の環境提案書を取り寄せました。近々みなさまのお宅にお届けしたいと思います。

海外でも人気のある漫画家「鳥山明」の書き下ろし漫画です。お家族で笑いながら環境問題を話し合ってみてください。

長テーブルの寄附

八方原子ども会は野外活動等で役立つ長テーブルを2台地区に寄附されました。

佐々木康弘育成会長は「今年度は夏の錬成会が水害で実施できなかったこともあって例年のような活動ができず、予算に余裕ができたため」と話しておられました。

夏まつりなどの野外活動に活用させていただきます。